

様 式 F - 7 - 2

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実績報告書（研究実績報告書）

1. 機関番号

1	4	6	0	3
---	---	---	---	---

 2. 研究機関名 奈良先端科学技術大学院大学
3. 研究種目名 挑戦的萌芽研究 4. 補助事業期間 平成24年度～平成25年度
5. 課題番号

2	4	6	5	3	2	1	3
---	---	---	---	---	---	---	---
6. 研究課題名 リラックスモデルの確立と持ち出し

7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
5 0 4 2 0 4 6 9	コマイ ショウジ 駒井 章治	バイオサイエンス研究科	准教授

8. 研究分担者

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名

9. 研究実績の概要

本研究課題では漸進的筋弛緩法によるリラクゼーションを模した動物モデルを構築し、ここで得られたリラククス状態をセーフティースIGNALと連合せ、時空間的に持ち出すことを目的とした。これによりリラククス状態の実験的再現と、同リラククス状態の持ち出しを目的とした。

刺激のON/OFFの制御が行いやすい物理刺激（触覚刺激および視覚もしくは聴覚刺激）を用いて不快刺激（具体的には頬部への微弱な空気が刺激）終了時の緩和過程との連合学習を行った。リラクゼーションの生理的指標として血圧の変動を計測したが、不快刺激終了後0-30秒において有意な血圧減少（約0.08 mmHg/sec減少）と心拍数の減少（0.6 bpm/sec）が見られた。ここでみられた血圧及び心拍の変化に対して条件刺激（37 db、10 kHz）を連合せ、学習曲線を検討したところ、条件づけ前半1-3日に比して、後半8-10日のCS提示時の血圧減少が有意に大きくなった。

これらの結果は本研究課題で目的としているリラクゼーションの動物モデル構築と、同リラククス状態の持ち出しの可能性を示唆するものであった。

しかし、先にも述べたがリラクゼーションの生理指標として血圧や心拍の変動を利用しているが、実際に同指標がリラクゼーションを表しているのか否かは慎重に検討する必要がある。

10. キーワード

- (1) リラックス (2) 漸進的筋弛緩法 (3) 動物モデル (4) 条件づけ
- (5) _____ (6) _____ (7) _____ (8) _____

11.研究発表

(雑誌論文) 計(0)件 うち査読付論文 計(0)件 (最終年度分)

著者名		論文標題			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)					

(学会発表) 計(0)件 うち招待講演 計(0)件 (最終年度分)

発表者名		発表標題	
学会等名	発表年月日	発表場所	

(図書) 計(0)件 (最終年度分)

著者名		出版社		
書名		発行年	総ページ数	

12.研究成果による産業財産権の出願・取得状況

(出願) 計(0)件 (最終年度分)

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	出願年月日	国内・外国の別

〔取得〕計(0)件 (最終年度分)

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	取得年月日	国内・外国の別
				出願年月日	

13.備考

--